

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第7回会議概要

- 1 会議名 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第7回会議
- 2 日時 平成30年2月2日(金) 午前9時30分から11時10分まで
- 3 会場 安曇野市役所 共用会議室307
- 4 出席者 宮下健司委員長、平田米子副委員長、安井邦夫委員、百瀬佳子委員、幅修一委員、上兼裕委員、亀井智泉委員、平倉勝美委員、降旗幸子委員、古川節雄委員、堀金隆雄委員
《事務局出席》 山田教育部長、古畑、田原
株式会社KRC(計画策定支援業務委託業者) 小林
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴人 0人 記者 0人
- 7 会議概要作成年月日 平成30年2月8日

会議事項等

○会議の概要

- 1 開 会 山田教育部長
- 2 あいさつ 宮下委員長
- 3 協議事項
 - (1) 経過報告について
 - (2) 第2次計画案の修正箇所の確認について
 - (3) 今後の予定について
 - (4) その他
- 4 閉 会 平田副委員長

○協議事項

- (1) 経過報告について
- (2) 第2次計画案の修正箇所の確認について
- (3) 今後の予定について
- (4) その他

(1) 経過報告について

【委員】 パブリックコメントについて、広報あづみのに掲載とありますが、何月のどのページに掲載されたのでしょうか。

【事務局】 平成29年12月20日発行の広報あづみのに掲載しました。今回、各部署の様々な計画のパブリックコメントを募集する記事は、まとめて一覧表にして24ページに掲載されています。

【委員】 今回、パブリックコメントがゼロだったという事ですが、各公民館等に設置されているものを、どれくらいの方が手に取って見ていたかということは、わかりますか。

【事務局】 ホームページ掲載については、どれくらいの方が見ていたかは確認できません。しかし、各支所等に設置していたものについては、見ている市民の方がいたということは職員が確認しておりますが、御意見まではいただけませんでした。

(2) 第2次計画案の修正箇所の確認について

【委員】 5ページ本文6行目の「が」は「を」の誤りだと思います。6ページ本文8行目のカギ括弧の位置が「姿」の前後どちらが正しいのか確認をお願いします。7ページ表の色について、背景が黒色だと色が強くて見づらいように感じましたので、工夫いただければと思います。14ページ系統図の左にある波線について、横よりも縦の方がいいと思います。5.1本文2行目の表記を、「系統図(14、

15 ページ)」とした方が見やすいと思います。21 ページ「③公民館講座の開催」について、本文2行目「地域で身近な」とありますが、「身近な」とあれば、「地域」は不要だと思います。22 ページ「⑤子どもの読書活動の推進」の本文1行目「子どもに」は、不要だと思います。23 ページ「①防災啓発活動の支援」本文の「大規模な地震や土砂災害」は、後出の「災害」と言葉が重複するので、「土砂崩落」などに変えた方がいいと思います。また、その下の「目標」について、文字を太字にして他の表記と統一してください。39 ページ「②公民館、交流学习センター等の…」本文2行目の「Wi-Fi (公衆無線LAN)」の表記について、巻末の用語解説の「公衆無線LAN」に並べて「Wi-Fi」も表記してはどうでしょうか。38 ページ「①新総合体育館の建設」本文の「幅広く市民に」について、目標では「市民が幅広いスポーツを」と表されており意味が異なってきますが、このままでよろしいでしょうか。40 ページ本文1行目「施策展開は」は「施策展開を」の間違いではないでしょうか。また、表記については14 ページと同様にしていただければと思います。45 ページ「②ホールの発表の場としての活用」は「発表の場としてのホールの活用」の方がよいのではないのでしょうか。66 ページ用語解説9「P D C A サイクル」の掲載ページが「P 9」となっていますが、「P 54」の間違いではないのでしょうか。

【事務局】 字句の誤りについては、修正します。7及び14 ページ表の色や表記について再調整したいと思います。同ページの波線については、印刷の関係で誤って表記されてしまいました。実際は、縦表記になっています。23 ページ①本文「土砂災害」についてですが、土砂災害には土石流、崖崩れ、地滑りの3つが含まれます。土砂崩落としてしまうと崖崩れのみを示すことになりますので、ここについては「土砂災害」の方が適切かと思えます。38 ページ①について、本文と目標の趣旨が異なりますので、どちらの意図が適切か再確認して修正したいと思います。66 ページのP D C A サイクルについては、「P54」と表記を改めます。

【委員】 66 ページ1番「ICT」の掲載ページについて、表記されているP5には掲載がないように思います。また、2番の「SNS」は5カ所記載ページがありますが、最初に登場する4ページには、巻末1と記されていますが、それ以降の4カ所には巻末の表示がありません。最初から読んだ方は分かりますが、途中から読んだ方には分かりにくいので、すべてに「巻末」の表示を入れてはいかがでしょうか。29 ページの「歴史資料」について、以前宮下委員長の説明を受けた後に博物館から資料を取り寄せた際にこの「歴史資料」という言葉が使われていました。専門の方々はこの言葉が使われているのだと改めて実感しました。ですので、ここでも「歴史資料」と表記して、さらに巻末に説明を入れてはいかがでしょうか。

【事務局】 最初に指摘いただいた「ICT」について、5ページには表示がありませんので、削除します。すべてに「巻末」の表示をするかどうかにつきましては、スペースの限られた図表などにも入れるかどうかも含めて、皆さんの御意見をいただければと思います。先ほど委員さんよりいただいた66 ページ8番「公衆無線LAN」の表記については、「Wi-Fi(公衆無線LAN)」というふうに全体にかかるように修正したいと思います。最後の「歴史資料」について、ここで使うことがこの言葉を周知する機会になるという大きな意味があると思いますが、一方で馴染みのない言葉なので読んだ方から間違いではないかという指摘を受ける可能性もあります。そのようなことを協議した結果、「歴史資料」としても文の意味として支障がないことと、皆さんに馴染みのある言葉であることを考慮して、「歴史資料」にした経緯があります。なので、また皆さんの御意見をいただきたいと思います。

【委員長】 用語解説の初出の箇所にも「巻末」表記をするのか、すべての箇所に表示するのかについて、いかがでしょうか。図表中の表記も含めて御意見いただきたいと思います。

【委員】 目次にも用語解説のページが表示されており、難しい言葉があれば巻末を見れば分かるようになってるので、用語が出る度にその都度表示する必要はないと思います。毎回表示すると逆に見づらくなってしまいう気がします。

【委員長】 論文などではいいのですが、一般的な文章ではその都度の載せると読みづらくなると思います。初出のみの表示の方がすっきりしていいと思いますので、そのような形で御理解いただければと思います。

【委員】 「歴史資料」と表記しても問題ないのであれば、使っていいと思います。

【委員長】 用語解説に載せることができれば、この言葉を新たに広めることはできます。

【委員】 先ほど話しました資料というのは、ごく普通の一般市民が訪れる博物館から取り寄せたもので、その資料の中に「歴史資料」という表記が2回も出てきており、ぜひ入れていただければと思います。

【委員長】 よくこの言葉を使う立場からは、非常に分かりやすい言葉なのですが、このことについては再度検討したいと思います。

【委員】 先ほど指摘がありました7ページの表について、変更する場合どのような色になりますか。

【事務局】 あまり多色を用いるのはよくないと思います。全体的に紫色を用いているので、11ページのような感じの図表か適当かと思います。再度、検討したいと思います。

【委員】 31ページ「⑦朗人大学の開催」について、朗人大学の認知が定着しておらず、未だに漢字の間違いを指摘されることがあります。この漢字を使用している意図の説明を加えて、これを機に幅広く市民の方に知ってもらえればと思います。

【委員長】 本文2行目には、カギ括弧がついて「朗人大学」と書いてあります。この括弧は、「老」ではなく「朗」の字であることを意味しているのだと思います。

【委員】 このままでいいと思います。

【委員】 先ほど質問が出ました21ページの「地域」や22ページの「子ども」の表記については、説明がありませんでしたが、いかがでしょうか。

【事務局】 22ページの「子ども」について、文中に「子どもが」と前出おり、その次の「子ども」については省略しても意味が伝わるので、全体のバランスをみて考慮して修正したいと思います。

【委員】 出前講座ではなく、地域公民館では独自に講座を開催しているのでここでは、不要だと思います。

【委員】 安曇野市の地域公民館は5つあります。しかし、この身近な公民館というのは、地区公民館を表しているのだと思います。ですので、地域公民館と地区公民館の両方を示す場合は、このままの文でないと伝わらないと思います。

【委員】 「開催場所が自宅から遠く移動手段がないため・・・」という本文は、地域公民館まで行くことができない人のために、身近な地区公民館の講座の充実を図るという意図があると思います。ここでは「地域」という言葉は不要だと考えます。

【委員長】 私もこの「公民館」は地区公民館のことを示していると思っていました。なので、講座は地区公民館で行う出前講座の方がいいと思います。

【委員】 地区でも独自で防災講座などを開催しているので、すべてが出前講座ではありません。先ほどの朗人大学について、高齢者という言葉が本文に出てきているのでこのままでよいと思います。

【委員】 16ページ本文の「フリーペーパー」「ソーシャルメディア」は、あまり一般的に使われていませんので、用語解説に追加してもいいのではないのでしょうか。

【事務局】 ソーシャルメディアについては、本文中に具体例を挙げながら説明しています。フリーペーパーについては、本文にはありませんが、17ページ表中に「フリーペーパー（無料情報誌）」と表記していますので、同様に表記すれば用語解説に追加しなくてもよいのではないかと思います。

【委員】 19ページ「⑤SNS上でのコミュニティの創出」の本文中「シニア大学」について、安曇野市では「朗人大学」を開催しており、シニア大学とは別のもので、混乱を招いてしまうのではないかと思います。

【委員】 26 ページ⑨本文「民俗・歴史・美術等芸術の」とありますが、歴史などは芸術に含まれないので、ここでは「芸術」という言葉は省いてもいいと思います。また、27 ページ⑩本文の前半と後半で表現が重複しているので、後半の表現を少し変えてもいいと思います。

【委員長】 「広報あづみの」、「市報」、「市報（広報あづみの）」と3つの表現がされているので、表記の統一を図ったほうがいいと思います。また、広報あづみのは定期刊行物ですので、二重括弧を付けるなどした方がいいと思います。44 ページ⑦本文1行目「見てもらう」は、「え」が抜けていると思います。25 ページ⑤本文1行目「市の」は「本市の」のほうがいいと思います。

【委員】 11 ページ本文2段落1行目「今後より」は、「今後、より」の方がいいと思います。25 ページ⑦本文2行目の「資する」という言葉について、少し馴染みないのですが、どのような意味でしょうか。

【事務局】 「資する出前講座」という言葉は、「役立つ出前講座」という言葉に変更したいと思います。

【委員】 以前の素案では、「推進する出前講座」となっていましたので、このままでいいのではないのでしょうか。

【委員】 11 ページ本文2段落目の「このライフステージ」を「ライフステージ」に変更し、冒頭に「この」を前に移動し、「この生涯学習」にして、さらに「今後、より」の句読点を省いてはどうでしょうか。25 ページ⑥本文に「インバウンド」とありますが、ここでは「外国人観光客」でよいのではないのでしょうか。

【委員長】 20 ページ本文最後から2行目「障がい者や外国人住民」という表現についても少し整理をする必要があると思いますので、検討したいと思います。

【委員】 51 ページ①2行目の「設立支援を行います」よりも「設立をサポートします」の方が読みやすいと思います。

【委員長】 同じく、55 ページ本文4行目「同様設問」についても「同様の設問」の方がいいと思います。

（3）今後の予定

【委員長】 今回根本的な大きい訂正はありませんでした。細かい修正点などについては、事務局で検討したものを再度、委員の皆様にお送りして確認していただく形でよろしいでしょうか。

（4）その他

【委員】 17 ページ本文の「ホームページで」の後に句読点を入れた方がいいと思います。また、同文で、「前者では5%未満の回答率…、後者では25%以上の回答率」とありますが、下の表を見ると前者と後者の数値が逆ではないかと思いますが、表の読み取り方は間違っていないのでしょうか。

【事務局】 本文と表について、前者が上段の表で後者が下段の2段目の表になります対応していますので、数値に誤りはありませんが、表のタイトルと本文が少し分かりにくいので整合性を持たせたいと思います。

【委員】 1年間この委員会に携わりまして大変勉強になりました。明科は非常に高齢化が進んでいて、市民のニーズが高齢者対象の講座が多いと思っていましたが、実際は健康づくりや生きがいくくりなどが多かったのもので、今のやり方を見直すいい機会になりました。この計画に基づいて市民のニーズや生涯学習の傾向を考えながら実施していきたいと思います。ありがとうございました。

【委員】 大変勉強になりました。図書館に携わる中で、市民に幅広く利用していただきたいと思っています。どのようにすれば、市民が図書館に足を運んでくれるのかという大きな課題をいただいていると思っています。ありがとうございました。

【委員】 生涯学習に関する市民の意識と実態の表について、自分自身に当てはまることが多く、自分のこととして認識しながら参加させていただきました。せっかく勉強させていただいたので、自分を高めたり、幅を広げたりする機会に参加しなければいけないなど改めて感じた事が、一番の勉強になったと思います。ありがとうございました。

【委員】 家庭教育関係の立場で、参加させていただきました。社会福祉協議会の子ども支援を専門に関わっているのですが、今回参加して自分の学びと良い経験になったと思います。自分が関わったものが成果物として出来上がってくるのは、非常に楽しみだと思っています。ありがとうございました。

【委員】 一年間この会議の参加を通して、「生涯学習ってそもそも何だろう。」という部分を学ばせていただく中で、学びの場とは出会いの場でもあると感じました。長野県は少しだけ人口増加があったというニュースがありましたが、外から来た人が学びの場で誰かと出会うことで、この地元に根を下ろして安曇野人^{あづみのびと}になってくれることを思うと、生涯学習計画というのは、より良い市民の学びの場を作るとても大切な計画なのだと改めて感じました。

【委員】 私はふつうの生活をしていて参加させていただいたのですが、皆さんと同じようにありがたく感じました。しかし、一生懸命知恵を搾って作り上げたこの計画が、果たして生きたものになるのだろうか期待するところであり、あきらめるところでもあります。この計画が反映されずに前年度を踏襲したやり方で終わってしまうという事にならないように、この計画が活用されるといいなというふうに思っています。ありがとうございました。

【委員】 私は、芸術文化協会の立場から参加しました。芸術文化協会会員のほとんどは65歳以上の区分に入っているというくらい年齢がかさ上げされる一方で、若い人に入っただけで土壌がない状況です。どの地域の芸術文化協会も50年近くの歴史を持っています。昔は生涯学習という言葉はありませんでしたが、人が集まって何かを学びたいという力が働いて芸術文化協会が設立したのだと思います。今は時代が変わりましたが、若い人がこのような学びの場が嫌いなのかということ、そうではないと思います。自分たちに必要なことが行われると集まると思いますので、これからは高齢者に対しても若者に対しても、みんなが健康で毎日の生活の中に目標や生きがい、夢が持てるようなコミュニティづくりを、生涯学習で学ぶことと一緒にできるような環境を築いていくのが大事だと感じています。しかし、どうすればうまくいくのかいつも悩みながら毎日を過ごしています。この計画通りにできれば素晴らしいのですが、計画は絵に描いた餅になってしまいがちなので、市民がどれだけ理解して動いてもらえるのが楽しみです。ありがとうございました。

【委員】 この計画策定委員をするにあたって、私は始め皆さんの中でやっつけられるのか心配でした。生涯学習にはスポーツという分野もありますので、その立場で推進計画を何か進めていけたらと感じています。7回行われたこの委員会の中で、果たして自分がどれだけ役に立てたかは分かりませんが、逆にいろんなことを勉強させていただきました。ありがとうございました。

【委員】 私は、講座などを受講する立場から参加させていただきました。まったく初めての経験だったので戸惑いもありましたが、皆さんからいろいろと教えていただき、本当に良い機会を与えていただいたと感謝しております。実は先日、安曇野検定を受けました。以前に松本や大町の検定も受けたことがあります。安曇野の事を学ぶとここだけでは収まらず、歴史にしても産業にしても必ず松本や大町との関連が出てきます。検定は松本市も大町市も観光課で担当していますが、安曇野市は教育委員会が担当しています。それだけ教育に力を入れているこの安曇野市で、この策定委員会に参加させていただいて、このことを市民に受け入れてもらうにはこれだけのことをしなければならぬという事を、一市民として大変感謝しています。ありがとうございました。

【委員】 素案と今日できた案と見比べてみると格が上がったと思います。いい冊子ができると思いますが、一年間頑張ってきたものがどれだけの人に浸透していくのかと思いました。しかし、生涯学習は難しいものではなく日常生活の一部であり、市民と生涯学習のつなぎ役をしていければと思います。皆さん真剣に取り組んでいただけてきた素晴らしい計画ですので、10年間これに向かってそれぞれの立場で広めていければと改めて感じました。本当にありがとうございました。

【委員長】 私はこの一年間それぞれの分野の皆さんと一緒に安曇野で7回の会議をもって、私自身

が本当に勉強させてもらいました。そして本当に楽しい良い会になったなと思いました。ライフステージごとのスローガンを皆で選んで決めて、その中で「安曇野人」という言葉が添えられたということは、何よりも素晴らしいことだと思います。この安曇野という言葉は、大化の改新後の詔^{みことり}から千年以上続いており、この安曇野人^{あづみのびと}という形でこの計画の中に入ったということが何よりだと思います。先ほど安曇野と言っても松本や大町との関わりがあるとありましたが、中村屋を創立した相馬愛蔵は、それ以前についてあまり知られていません。彼は早稲田大学を出て、札幌農学校で蚕の勉強をします。そして、穂高へ戻ってきて蚕の種の勉強をして本を書きます。蚕種の改良していくためには、日本の蚕種の原点でもある旧安曇村の風穴に蚕種を預けて研究を行い、そのことについて黒光さんが書いています。このようなことも安曇野の広がり^{あづみのびと}の素晴らしさだと思います。安曇野という言葉が全国の人が聞いたとき、先ず歴史的に安曇という言葉を知っていて、小説でも知っていて、空間的にも常念岳や燕岳の麓の清流が流れている場所であると言葉を聞いただけでイメージできます。この素晴らしい安曇野の生涯学習におけるこれからの10年間の計画が皆さんの力でできた事を本当に感謝して、御礼申し上げたいと思います。一年間本当にありがとうございました。

【教育部長】 事務局を代表しまして、御礼の挨拶をいたします。委員長をはじめ、15名の委員の皆様には、4月27日第1回から本日第7回まで約1年間に渡って、それぞれの御立場での御意見をいただきながら多面的な角度からこの計画の策定につきまして慎重に御協議いただきまして誠にありがとうございます。ただ一点、自治基本条例で実施を定められているパブリックコメントについては、周知を徹底し募集しましたが意見が出ませんでした。我々としては、受けるだけではなくて、出て行って1か月の募集期間中に説明会などを開くことができれば、本当はよかったかと感じております。反省点として、積極的に外に出ていくということで次回に繋げていきたいと思います。今後について、指摘がありました計画倒れにならないように、また実現できるように期待に応えられるよう頑張りたいと思います。また、絵に描いた餅で終わらないように、この素晴らしい計画をぜひ具現化していきたいと思います。作っていただきましたスローガンや施策展開をいかに実行していくかという事が私たちの責務だと思っております。10年間という長い計画です。当然、経済情勢、社会情勢は大きく変化し、よってこの内容も変わってくると思います。常に見直しを行いながら、時代に即応していきたいと思っています。本当に実行できたかどうかは、しっかりと検証していかなければなりません。そのために、安曇野市生涯学習市民会議というものを設置しており、この会議で計画が順調に進んでいるかを点検、評価をします。ぜひ委員の皆さんには、この会議に参加をいただきながら最後までやり通して欲しいというのが、こちらからのお願いであります。今後ともご協力いただくことができるかと思いますが、よろしく願いいたします。本当に1年間ありがとうございました。